

早稲田大学 教育学部・政経 講評

〔総合分析〕

出題形式	記述式
試験時間	60分
特徴・その他	大問は4。政治1題、経済2題に、EUの加盟国増加を含む国際政経が加わる。

〔大問別講評〕

番号	出題内容	コメント	難易度
I	女性の政治参加	設問(1)ロは経済学説で登場する人物。へは周・ネルー会談のネルーの娘。 設問(3)は受験生には判断が難しいと思われる。それ以外は標準的知識で対応できるだろう。	やや難
II	EUとイラク戦争	設問(3)ニース条約の発効条件、(4)Aポルトガル前首相名は難しい。 あとは標準的知識とニュースの知識で対応できる。	やや難
III	金融政策	設問(1)6・7は国税収入の順位。このような細かいと思われる事項も正確に覚えておこう。 設問(2)はニュースを正確に理解することで、(c)(3)は預金準備率操作を深く理解することで対応できる。	やや難
IV	日本の農業問題	設問(1)6は難しい。あとは標準的。 設問(2)の数字は日頃からチェックしておくべきもの。 設問(3)ではオーストラリアをどこに入れるかで悩んだであろう。	標準

〔総合コメント〕

<p>標準的問題を確実にものすれば、合格ラインには到達すると思われるが、普段から、標準知識を一步突っ込んで学習すること、ニュースの言葉を用語解説で理解することを心がけておくとよい。倫理や世界史など隣接科目の知識も大切にすることはいうまでもない。</p>
--